



広報

なまきじん

No.73

1981 12月

村章

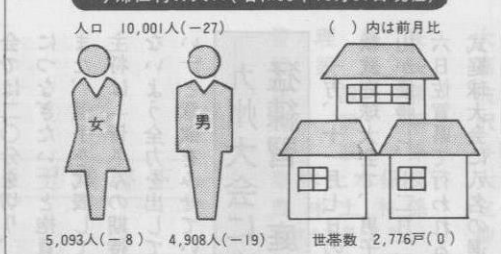
(毎月1日発行)



▲北山高27年ぶりに全県制覇

沖縄県高校駅伝大会が11月9日行われ、北山高が2時間20分35秒の大会新記録で27年ぶり3度目の優勝を飾った。
(写真=テープを切り思わずガッツポーズのアンカー宮里選手)

今帰仁村の人口(昭和56年10月31日現在)



編集発行：今帰仁村役場総務課秘書広報係

〒905-04 沖縄県今帰仁村字仲宗根219 電話 098056-2101

印刷：沖縄高速印刷株式会社

南風原町字兼城577 電話0988-89-5513

二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一

- 健闘する北山高校
- 架橋・医師派遣を要請
- 北山郷友会が運動会
- しめやかに平和祈願祭
- 国頭郡陸上女子の部で準優勝
- 村民コーナー私の一言
- 発展する村の姿を喜ぶ
- アルゼンチン 玉城源五郎
- ふれあいと生きがいを求めて
- 高齢者教室村外研修
- 村内文化財散歩
- 地名を考える
- 十二月二三日～一月六日
- 年末年始交通安全運動
- 老人健康診査を受け
- 健康な生活を

目

次

健闘する北山高校

駅伝・庭球男子団体が県代表に

◇ 北山高校のスポーツ面での活躍がめざましい。
 ◇ 六月―県高校総体(女子総合二位) 十月―滋賀国体県代表として、軟式庭球四名、陸上三名派遣。十一月―県高校駅伝大会で二七年ぶりに優勝……そして、十一月二十九日の全九州高校駅伝大会(福岡)十二月二〇日の全国高校駅伝大会(京都)に十一人が県代表として派遣、十二月二五日、二六日の全九州軟式庭球大会(佐賀)に八名の選手が派遣されることになってい

◇ 照屋寛哲校長は「規模が小さくても、やればできるんだということを証明してくれた。教師と生徒が一体となったチームワークがこれらの成果を産んだ」と話している。
 ◇ すでに商業科が廃止され、県内でも小規模な高校となつてい
 ◇ 同じ校だが、これら各面での活躍は、同窓生やこれから入学する小・中校生の大きな励みになることだろう。
 ◇ 今回は、活躍するこれらのクラブに焦点をあててみた。



駅伝大会へ派遣される選手達



庭球大会へ派遣される選手達

目標は記録短縮
駅伝部

沖繩県高校駅伝大会が、十一月九日行われ、北山高が二七年ぶり三度目の優勝を飾った、北山の伝統復活と、村内がわいた一日でもあった。

コースは、奥武山競技場スタート知念村折り返し奥武山競技場ゴールの七区四二、一九五キロで競われた。北山は一区から快調に飛ばし三区まで区間賞を獲得する快走で二位以下を大きく引き離した。最終ランナーまで一貫してトップを走り続け、従来の記録を五分十九秒も短縮する二時間二〇分三五秒で念願の三度目の優勝を飾った。

九州、全国駅伝大会に派遣される選手

①	出身)	根山	宗我	仲根	年	(3)	年	(3)	年	(3)	年	(3)
②	出身)	山	越	越	年	(3)	年	(3)	年	(3)	年	(3)
③	出身)	地	今	志	年	(2)	年	(2)	年	(2)	年	(2)
④	出身)	地	具	越	年	(2)	年	(2)	年	(2)	年	(2)
⑤	出身)	地	越	我	年	(1)	年	(1)	年	(1)	年	(1)
⑥	出身)	山	古	伊	年	(1)	年	(1)	年	(1)	年	(1)
⑦	出身)	利	仲	尾	年	(1)	年	(1)	年	(1)	年	(1)
⑧	出身)	江	仲	次	年	(1)	年	(1)	年	(1)	年	(1)
⑨	出身)	川	伊	尾	年	(1)	年	(1)	年	(1)	年	(1)
⑩	出身)	次	仲	尾	年	(1)	年	(1)	年	(1)	年	(1)
⑪	出身)	泊	今	今	年	(1)	年	(1)	年	(1)	年	(1)

第一回、二回大会連続優勝から実に二七年ぶりの快挙だった。試合前から北山は優勝の最右翼にあげられた。これは、仲地光雄監督と選手が一丸となって早朝、昼と毎日二〇キロの練習さらに夏休みの合宿、日曜日のコースの試走と、練習の豊富さが評価されたためだ。それを裏づけるかのように、他を寄せつけない見事なレース展開であった。

OBが激励会

さる十一月二二日、午後六時半から役場ホールにおいて、北山陸上部OBが中心になって「北山高駅伝部の激励会」が行われた。これには発起人代表の大村光洋氏をはじめ、同窓生、恩師、三段跳の具志堅興清氏らスポーツ北山の伝統を創りあげた方七〇人が出席し選手を激励した。

九州庭球大会に派遣される選手

①	出身)	川	湧	湧	湧	湧	湧	湧	湧	湧	湧	湧
②	出身)	川	湧	湧	湧	湧	湧	湧	湧	湧	湧	湧
③	出身)	川	湧	湧	湧	湧	湧	湧	湧	湧	湧	湧
④	出身)	川	湧	湧	湧	湧	湧	湧	湧	湧	湧	湧
⑤	出身)	川	湧	湧	湧	湧	湧	湧	湧	湧	湧	湧
⑥	出身)	川	湧	湧	湧	湧	湧	湧	湧	湧	湧	湧
⑦	出身)	川	湧	湧	湧	湧	湧	湧	湧	湧	湧	湧
⑧	出身)	川	湧	湧	湧	湧	湧	湧	湧	湧	湧	湧

会の中で仲地監督は「九州大会では二〇分を切り、全国大会につなぎたい」と抱負を語った。また、選手を代表して浜里正己主将は「皆さんの期待を裏切らないよう全力を出して頑張りたい」と意欲をみせていた。

九州大会に向け猛練習 庭球部

一方、十一月七日の高校新人軟式庭球大会で、男子団体で北山が優勝し、十二月二五日、二六日佐賀県で行われる全九州軟式庭球大会に八名の選手が県代表として派遣される。

庭球での北山高の活躍は男女とも目をみはるものがある。今年だけでも、七月の全九州高校軟式庭球大会(鹿児島)に四名、八月の全国高校総合体育大会軟式庭球(宇都宮)に四名、十月の国体軟式庭球大会(滋賀)に四名の選手がそれぞれ派遣されている。

これらの実績の陰には、やはり早朝から授業後暗くなるまでの猛練習があるのを忘れてはならない。今選手達は十二月二五、二六日の九州大会に向けて、津波毅、川上洋文両監督の指導の下猛練習に励んでいる。

輝かしい北山健児の翺を九州大会でも再現を――と祈らずにはおられない。

架橋などを要請 医師派遣

西銘知事古宇利島を訪問

県の視察広聴「知事といっしょに」が、十一月二〇日、村内の古宇利島で行われた。島を訪問したのは、西銘沖繩県知事以下、新垣県総務部長、高良知事公室長など、県の部課長十名とマスコミ関係者十一名。一行は



午前十一時に古宇利丸で到着した後、約三十分わたり島内を視察。その後、公民館前広場で区民百五十名と懇談した。席上、古宇利区から

- ① 港湾の整備
- ② 漁船の整備
- ③ 渡船造船の助成
- ④ 診療所の医師派遣
- ⑤ かんがい施設の修復補助
- ⑥ 古宇利大橋の架橋

⑦ 農業基盤整備の促進

の七項目にわたり要請が出された。西銘知事は、離島若は充分理解しているとしながらも「財政上からも厳しい要請であり、担当課とも調整し検討したい」と、実現の困難性をおわせた。離島であるが故の離島若は、

農家の生産性向上の

各事業進む

農協肥育センター・農道整備など

肥育センター

昭和五六年度肉用牛集約生産基地育成事業の一環として、呉我山試験場跡地において「今帰仁農協肥育センター」の建設が進められています。この事業は、繁殖農家で生産された肥育素牛をセンターで肥育し地域内一貫経営を確立するとともに、耕畜結合により肉用牛生産部門および農家全体の生産の向上を図ろうというものです。

総事業費は七千七百七十万三千円（国・県補助七〇％、農協負担三〇％）で、この事業によ

生活、文化、産業すべての面に大きな影響を与えており、それだけにどの区民の顔にも切実な悩みがみられる。広聴会を機会に、これらの要請が早期実現するように強く期待したいものである。

写真―公民館前広場で字民と懇談する西銘知事一行

り、肥育牛舎、育成牛舎、家畜管理施設、堆肥舎、汚水槽、受水槽などが建設されます。請負は嘉陽組（嘉陽重安社長）で、すでに十月二十七日から着工しており、来年三月十日に完成します。

古宇利農道

団体営農道整備事業として、古宇利農道整備が今年度から五九年度までの四カ年継続事業として進められています。

この道路は古宇利島唯一の幹線道路にもかかわらず、幅員が狭いうえ交通量の増大により路

面の維持管理に経費がかさみ、早急に整備が必要とされています。

総事業費は四億円（国補助三億円、県補助六千万円、村負担四千万円）。五六年度の請負は武国建設（喜屋武国男代表）で、請負金額は二千七十万円となっています。なお、この事業では幅六、五メートル、延長四千六百メートル（五六年度は四百メートル）の道路が整備されることになっており、維持管理費の節減や島の環境整備が図られることとなります。

湧川農道

農業構造改善緊急対策事業の五六年度事業として、湧川農道の工事が進められています。

この道路は農道としての利用度が高いにもかかわらず、降雨のたびに路面が排水路と化し、不便をきたしていたもの。工事費は二千七百五十万円、

（国・県補助二千三百九十二万五千円、村負担三百五十七万五千円）で、嘉陽組が請負い、さる十月十七日から工事が進められています。完成は来年一月十六日。幅員五メートル、延長六八九、七メートルの整備により、さとうきびの生産性の向上が期待されています。

村職員研修会

住民サービスの向上を

村では、十一月十四日（土）午後一時三十分から四時まで、村の全職員を対象に「職員研修会」を実施した。これは、地方公務員としての自覚を持つとともに、知識を向上させ、よりよい住民サービスに努めることを目的としたもので、沖繩県自治研究所教務主幹の比嘉賀幸先生を講師に「望ましい接遇、公務員の心構え、住民サービス、明るい職場づくり」についての講演がなされた。

役場ホールで行われた研修会には、農協職員二〇名を含め一四五名の職員が出席し、熱心にペンを走らせていた。なお、この種の公務員研修は、那覇の自治研修所で各市町村の職員を集め実施しているが、このように一市町村で全職員を対象に行われたのは極めてまれで、今後の成果が期待されている。



▲役場ホールで行われた研修会

にぎやかに大運動会

融和を深める北山郷友会



▶多くの村出身者が参加した郷友会運動会

琉球大学医学部は、今年百名の医者の卵を受け入れ、その教育を開始したところであり、これから毎年百名づつの学生を受け入れることとなりますが、これらの学生達が一人前の立派な医者となっていくためには、これから医学の様々な分野について勉強していかねばなりません。中でも人体の構造について学ぶことが必要であります。医者の養成には尊い人の体が必要ですが、それは多くの県民の深いご理解とご協力に待たなければ

那覇近郊在の村出身で構成する北山郷友会の「第五回北山郷友会大運動会」(大会長 石川元安郷友会長)が、十一月八日午前九時半から奥武山陸上競技場サブグラウンドで行われた。大会は、会員が一同に会してスポーツを楽しみ、会員相互の親睦と会の発展を図ろうというもので、会員五千五百人のうち約二千百人が参加した。また、郷里今帰仁から、村長、助役、収入役の村三役、教育長、正副議長、役場課長、議員、区長など

四五人も参加し、大会を盛りあげた。開会式の中で石川大会長は、「友人・知人が久しぶりに一堂に会し、旧交を温めながらスポーツを楽しむことは誠に喜ばしい限り。健康第一に頑張つて下さい」とあいさつ。また激励にかけつけた松田村長は「皆さんの各界の活躍は郷里の誇りです。村人のきずなで会が一層発展す

北糖が大会四連勝

各団体親善ソフトボール大会

第五回村内各団体親善ソフトボール大会(仲松弥貞大会長)が、十一月十五日、快晴の村営グラウンドで行われた。(写真右下)

この大会は、日頃接する機会の少ない村内各団体の親睦と、スポーツを通しての健康の増進をめざしたもので、参加したのは、

することはできません。従つて献体とは何よりもまずより良い医者を育てるための協力であり、私達自身(あるいは子や孫たち)が安心して医者にかかることができることはできません。従つて

会員および献体も除々に増えております。沖縄県の医師確保と医学の向上発展のため、なにとぞ県民一人一人のご理解とご協力を切にお願いいたします。

献体に「ご協力」を

琉球大学医学部

は、私達が各々天寿を全うした後、自分の遺体を医学教育に役立てるため、大学へ無償で提供していただくことをいいます。この献体がなければ医者を養成

できるようにするために必要なことなのです。すでにこのようなご協力を申し出られた方々でつくる「琉球大学でいご会」が発足し、その

琉球大学医学部(那覇市与儀一三一一、TEL:098-881-5515) 解剖学教室(内線二〇九又は二五六) 研究協力係(内線二五四)へどうぞ



役場、議会、区長会、農協、農業委員会、商工会、北糖、糖友社、たばこ耕作組合、それに初出場の教育委員会(委員と各学校長で編成)の十チーム。大会は午前九時半から開始され、珍プレー、迷プレーが続出する和やかな雰囲気の中で熱戦が展開された。優勝戦は、下馬評どおり北糖と議会で競われ、北糖チームが十二対十一のサヨナラ勝ちで大会四連勝を飾った。なお、議会は昨年に続き準優勝となり雪辱は果たせなかった。三位は農業委員会に快勝した糖友社チーム。また、北糖の西平守福投手に殊勲賞が贈られた。試合終了後、会場を役場ホールに移して反省会がもたれ、村内各界のトップリーダーの集りだけに、観戦論議から村づくり論議まで話題がつきなかつた。

琉球大学医学部

女子の部で準優勝

健闘した村チーム

56年度 国頭郡陸上



国頭郡十町村参加の「昭和五十六年度国頭郡陸上競技大会」が十一月一日午前九時から名護市競技場で行われました。

当日は快晴に恵まれ、好記録が続出。本村からも四七人の選手が派遣され、各種目に好成績を納めました。特に女子チームは、金武町に次ぎ堂々二位に入賞。なお、男子五位、総合五位の成績でした。順位と村の三位までの入賞者は次のとおりです。

- ◎総合優勝金武、二位本部、三位伊江、四位国頭、五位今帰仁、六位恩納、七位東、八位大宜味、九位宜野座、十位伊是名
- ◎男子優勝金武、二位国頭、三位伊江、四位本部、五位今帰仁、六位恩納、七位東、八位大宜味、九位宜野座、十位伊是名

- ◎女子優勝金武、二位今帰仁、三位本部、四位伊江、五位恩納、六位国頭、七位大宜味、八位東、九位宜野座、十位伊是名
- 仲本満(男子百三位)

○上間直樹(五千二位、一万二位) ○年齢別リレー二位 ○与那嶺吉文(走巾二位) ○石川博利(三〇代千五百三位) ○仲宗根武一(四〇代百一位) ○仲本光秀(四〇代八百二位) ○仲伊部正人(四〇代走高三位) ○比嘉宏美(四百三位) ○上間美和子(百廿三位、走巾二位) ○与那嶺悦子(円盤二位、砲丸二位) ○玉城明美(ヤリ投一位)

写真 久田友清監督を先頭に堂々と入場する村選手団

若さがいっぱい

意気盛んな老人スポーツ大会

今帰仁村老人クラブ(湧川善雄会長)今帰仁村婦人会(小浜孝子会長)共催による「第八回老人婦人スポーツ大会」が、十一月七日(土)村営グラウンドで開催されました。大会は、スポーツを通じ体力の増強を図るとともに、同世代の交流により住みよい村の建設につとめようというもので、秋の恒例の村行事としてすべての村民から待ち望まれています。

今回は雨天続きで、十一月三日の予定を順延するというアクシデントもありましたが、当日

郡体協より表彰

仲原武一さん



字謝名三四八の仲原武一氏が十一月一日、国頭郡体育協会長よりスポーツ功労者として表彰されました。

仲原氏は、昭和四五年から五

は涼しい絶好のスポーツ日和となりました。午前九時からの開会式では、揃いの団体旗とユニフォームに身を包みさつそうと入場行進。大会長の湧川村老連会長は「自分のペースを守り、無理をしないでスポーツを楽しみましょう」と、選手を激励しました。

競技は老人クラブの玉入れで始まり、リレーや宝さがし、三代リレー、ゆうぎなど、二〇種目に熱戦をくり広げ、集まった三千人の観衆をわかせました。また、小中学校の学年リレー

五年まで国頭郡剣道部長、北部支部剣道連盟副会長、昭和四〇年から五五年まで今帰仁村剣道部長を歴任し、村や国頭郡体協の普及発展に尽くされました。現在、北部支部剣道連盟副会長、村体協剣道部顧問として活躍。また、青少年健全育成のため、剣道教室の指導者として忙しい毎日を送っておられます。

▲国頭郡体協長より表彰される 仲原武一さん

職域、後援団体リレーもあり、大会に花をそえました。



精一杯走った老人クラブリレー



発展する村の姿を喜ぶ

アルゼンチン国ブエノスアイレス市
マンシージャ街三五八五

玉城 源五郎
(諸志出身、洗染業)

外国に住んで、遠く離れた故里今帰仁の動きが手にとる様に分り、郷土の香り豊かな村の行政、教育、スポーツ、伝統芸能殊に同年輩の老人クラブの活動ぶりがいながらにして楽しめる広報は、無聊の中の何よりの楽しみである。

戦後の日本が荒廃の中から立ち直り、僅か三十余年で経済大国にまで発展したのは、日本人の勤勉さと努力の成果に外ならない。年功序列や終身雇用等、外国人にはとても理解できない社会システムが好例である。そして平均寿命が伸びた為に世界一の高齢化社会となり、一方で大都市への集中による病的なまでの過密人口問題も抱えている。前年、郷土訪問の時に見た東京の新橋駅から洪水のように吐き出される人の群れが、わき目もふらず、秩序正しく、それぞれ目的の地に向って歩いていく朝の出動風景は実に驚きであ

った。なる程、近代社会において同情したくなるような光景でもある。だが、狭い国土で資源を持たない日本が、先進工業国として発展する時、その様な深刻な出動事情に悩む一面もまた致し方ない現実なのだろう。

私の住むブエノス・アイレスのサンタ・フェー街やフロリダ街では、世界各国からの輸入品が店頭をうめている。その中で、あらゆる電気器具や自動車、オートバイ、カメラ、時計、玩具類など日本製品が圧倒的過半数を占め陳列されている光景は実に見事なものです。何かと精巧さを誇る日本人の創意工夫の行き届いたM.A.D.E.・I.N.・J.A.P.A.N.の品々が、人々に絶讃され買い求められて行く様子は日本人の一人として本当に鼻が高く喜ばしい限りである。

このコーナーは、村民の皆さんの日頃感じている意見発表の場です。村政に対する要望や家庭のこと、将来の希望など何でも結構です。村役場総務課秘書広報係までお寄せ下さい。

なお、ご意見は四百字詰原稿用紙二枚程度で、住所、氏名、職業を添えて下さい。※あて先
今帰仁村字仲宗根二一九
村役場総務課秘書広報係
(TEL二二一〇一)

湧川氏・仲原氏に 秋の叙勲

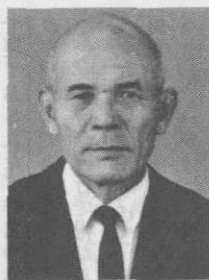
十一月三日文化の日、恒例の秋の叙勲が発表されました。沖縄県関係は三人で、その中には村出身者お二人も含まれています。受賞されたのは、湧川善公氏(七四歳、謝名出身、那覇市上之屋四七)と仲原武一氏(六八歳、字謝名三四八)

湧川氏は、産業振興功勞として勲四等瑞宝賞を受賞。氏は昭和三三年沖繩瓦斯株式会社を設立。以来六年間社長に就任。三九年以来今日まで十七年間会長職につき、経営の指導にあたっておられます。また卸商商店街若松通り会会長、琉球商工会議所理事を歴任するなど、県内の産業振興に果たした功績は大きなものがあります。

仲原氏は、警察功勞として勲七等瑞宝賞を受賞。氏は昭和二二年警察に入署以来、昭和四九年退職されるまで、渡久地警察署、名護警察署に三奉職されました。在職中数多くの業績をあげられ、昭和四七年には警察庁長官賞を受賞されています。



▲湧川善公氏



▲仲原武一氏

病害虫の発生は 防除員への連絡を

安全かつ適正な農薬使用と農作物病害虫防除の徹底及び発生予防を図るため、本村では次の方々が果知事より病害虫防除員として委嘱されています。

防除員の主な活動内容は
①サトウキビ、パイナップル、果樹、野菜等、畑害虫の発生予防
②共同防除の立合、アドバイス

③農薬使用についての農家指導等です。

農家の畑に病害虫が発生し被害を受けているとき、あるいは病害虫防除方法等がわからない時は、防除員に連絡し指導助言を受けるようにして下さい。

○病害虫防除員：与那嶺勝、島袋利夫、上間悟

○連絡先：村農協営農指導員室
(TEL一三六九八)

ふれあいと生きがいを求めて 高齢者教室村外移動研修を実施

高齢者教室では、毎年一回の村外移動研修を実施している。今年十月十六、十七日に伊平屋島への一泊研修を試みた。

移動研修の目的は、村外の自然や人情、生産を実際に見ることである。そして、そこに生活している人や、産業、史跡に接し、さらに同年輩の方と交り、深くすることは有意義なことである。伊平屋島は、参加者全員が初めて訪れる島であり、いつかいつかみたいと思いつつも個人ではなかなか実現できないことで、集団で訪問することを喜んでくれた。

十二時三十分、「フェリー伊平屋丸」は渡久地新港から出航した。船室から眺める景色は、いつも陸上から見るのとはその趣きを異にしている。特に海洋博公園や伊江島のあたりでは、みんながガラス窓に顔をくっつけて眺めいつていた。

午後二時三十分、伊平屋の前泊港に接岸する。港には島の観光バスが迎えに来て、一行はすぐ島の一周観光にかけた。二時間の船旅の疲れもみせず、初

めて見る風景に右を見たり左に顔を向けたりで忙しく首を振っていた。

農地の見える所で、みんなはびっくりする光景に出合った。長い干ばつの上に、台風十五号二二号のために甘蔗はうちのめされて青い葉が一枚も見られないのである。また田圃は大きくひび割れて稲も枯死状態である。このさまを見て、みんなはこの島の生活の厳しさを思い、島チヤビのおそろしさを感じた。広々とした田名の田圃は雑草が芒々と生い茂り、過疎の島の姿を露呈している。数年前まで草原には多くの牛馬がのんびりと草を喰んでいたのに、それさえもわずかしが見られぬ。

しかし田名の広々とした田圃風影はいまなお郷愁をそそり、久里原から眺める田名の赤瓦の屋根や大田名岳を背にした家並がなつかしく、古くから島に伝わる「あさ道がいめら 与那道がいめら わ身やうじや森 うまちさびら」の歌が思い出される。また田名では売店主任がみんなに飲み物をくださった。なん

でも弟さんが仲宗根にお住まいになっているとかで、よろしくとのことだった。島人の人情の厚さが船でかわいた喉をうるおしてくれた。

念頭平松の枝振りの美しさや、クマヤの洞穴の神秘さ、岩石の色の美しさ、吹き上げられた砂は話に聞いた以上のみごとさで互いに研修旅行に参加したこと喜びあつた。

大田名のくしに無蔵水のあゆん
夫振わず女ありにあみし
夫振わず女ありにあみし
なま童女なてど一人や振たる

裏海岸に出ると海中に無蔵水という岩が立っている。その岩の伝説にちなんだ古歌である。

島尻部落の裏から与根の砂浜に出て新しく架けられた野甫橋を渡り、ハンタ毛に出る。ハンタ毛は中本先生の作詞で老人クラブの踊りとしてみんなに親しまれている所。広々とした毛で

あると思つたらちよつとした芝生の広場にすぎず、予想に反したとカッカリ。ところがそれは道路にとられたためとわかり、「おしい、おしい」を連発する

方もいた。

飯井氏のお宅を訪問する。庭から眺める海の美しさにみんな感動する。飯井氏は戦時中伊平屋の人々に世話になったという。

この島に魅せられ、ここを隠居の地として今年建築したばかりである。野甫の人々と親しく交り、お住まいは島の集会場にも使われているということだった。

島の一周観光を終えて宿舎に帰ってきたのは夕方の六時半である。海の見えるホテルの食堂で、みんなが揃つてとる夕食のおいしさはまた格別であった。

夕食を済ませてすぐ前泊公民館に出かける。公民館では、地元の老人クラブの方々がすでに待つておられた。まず型通りのあいさつを両方がそれぞれ行う。島の風景の美しかったこと、農家の苦勞談、老人の生き甲斐のある人生を送るために……と

の「照島」をくみかわしつつ各々の村に伝わる芸能や自分の持つていた芸を披露して午後十時まで賑う。島の人々にもとても喜んでもらい、いつまでも変らない友情を誓い合い、海風を胸いっぱい吸いながら浜辺の夜道を宿舎に帰った。

翌日の午前八時半、船は定時に岸壁を離れた。帰りの船中は半数くらいの方が渡久地港まで寝ておられた。昨日からの疲れが出たのであろうか。

今度の研修旅行で得たことは初めて見る島であること、島の農業や生活の実態を見て自分達の住んでいる村が自然条件に恵まれている土地柄であること、島の同年輩の人々と親しく交わつて楽しい一夕であったこと、等々である。島では老人クラブ会長の宮城松助氏にとってもお世話になった。船の入港、出港の際の送迎、交歓会での会場の世話等、いろいろなおもてなしに一同とても感激した。

最後に、参加者全員が引卒者の指示に従い無事旅行を終えたことについて、世話をした者としてとても喜びに堪えません。

村社会教育指導員

山内昌藤



地名について若干考えること
があり、村民の皆さんと共に関
心を寄せたいと存じ提起したい
と思います。ここでは、今婦仁
を中心に他地域との関連で想定
したい。

まず、現在で表記される「今
婦仁」の表現について最も古い
と思われる十五世紀の文献「海
東諸国紀」中の古図に「伊麻奇
時利」の名で始めて表われます。
また、十六世紀頃に首里王府
から「与那嶺の里主所（現在の
区長に相当）」に与えられた辞
令書に「ミヤ

きせん」がみ
られ、慶長の
頃の文書には
「今鬼神」の
表現で記され
ています。

また、おもしろそうし及び十六、
十七世紀の金石文には「みやき
せん」とそれぞれ記されている
ことが確認できます。

以上は今婦仁の地名を表現し
た主なものですが、これはいづ
れも借字で、往古では「ミヤ・
キジリ」又は「ナ・チヂン」と
呼び表わしていたものと考えら
れる。その理由については、今
婦仁城跡周辺の「マガチャ原、
セケル原」の呼び名が「今婦仁」
の地名となったものと思われる
からです。次にその語源を考え

てみよう。

沖縄語では、「ミヤ」・「ナ」は
庭、真南、広場を示します。今
婦仁の地名の「ナ」の場合は
「真南」の意で「キジリ」「チヂ
ン」は削る、キジルン、ピジュ
ン、又は「切」チンの方言であ
ろうかと思えます。

山または丘が凸凹状に刻み込
んだ様な地形をギシ原、ガジヤ
ンピラ（那覇市）、ガージャ、
ジョウガピラ（本部町）等々と
言い、本村ではマガチャ原、セ
ケル原、それに今婦仁グスクあ

明らかに村落跡の可能性を示し
ているところです。

ニクン、デイコーラには古代
のマキヨ（部落）時代のネーゴ
ンクダ、デイクマク（以上大
宜味村）にそれぞれ対応するも
のとして残っているのではない
かと考えられます。

また、今婦仁グスク内で催さ
れる字今泊の部落行事であるグ
スクウイミときのアザナまわり
は「上沢」まわりの意ではない
だろうか。それは、首里城跡の
「高アザナ」「島添アザナ」と
同様の「上沢」

村内文化財散歩 地名を考える

たりの地勢が正にそれに相当す
る。

兼次（河の腰）、ニクン原、デ
イコーラより見て真南に「削」
があり、訓字を当てれば「真南
削」になる。そして、マガチャ
原、セケル原の原名にもなり、
按司の所在地になるに及んで今
婦仁となったのではないでしょ
うか。

ついでに、上記の地名ニクン、
デイコーラについてもその語源
を考えてみたい。これらの一帯
には土器片、陶磁器片、石器片、
貝殻等が一面に散在していて、

らです。

以上について拙文ではありま
すが、地名がどういう理由から
命名されたかについて日頃考え
ていることをしたためた次第で
す。村民の皆さんの御教示を頂
ければ幸いです。

今婦仁村字越地三二三

玉城 三郎



<ご存じですか> 人名漢字

54字増えました



漢字が、今年の十月一日から増
えたのをご存じでしょうか。

今まで子供の名前に使える漢
字は、千九百七十字（当用漢字
表プラス人名用漢字別表・同追
加表）でした。これが、常用漢
字表等の制定により、二千百十
一字（常用漢字表プラス新人名
用漢字別表）になりました。つ
まり、百四十一字増えたこと
になります。

この中で、新しく人名用漢字
別表に仲間入りしたのは「尪」、
「莱」、「遼」などの五十四字（別
表参照）。今まで認められなかつ
た「尪夫」や「遼太郎」などの
名前もOKになりました。

名前は、もう一つの顔」とし
て、一生ついてまわるもの。そ
れぞれの思いをこめて、ステキ
な名前を考えてあげたいもので
す。

人名用に新採用の54字

尪	苑	甫	楓	彬	伍
迪	莱	皓	槿	惇	伶
遥	莉	眸	汐	惟	侑
遼	萌	矩	洵	慧	堯
霞	萩	碧	洸	斐	孟
頌	蓉	笹	渥	旦	峻
駿	落	緋	瑛	昂	嵩
鳩	虹	翔	瑤	季	嶺
鷹	諒	脩	璃	栗	巴

12月23日～
1月6日

年末年始交通安全運動 事故のない明るい社会を



沖縄県の交通事故の特徴は、交通三悪による死亡事故が多い。若者の事故死者が非常に多い。二輪車事故による死者が多い。致死率が高い、ことなどがあげられます。

交通三悪を追放し、事故のない明るい社会を皆んなの手で築きあげましょう。

村・北糖今事業所が表彰

永年にわたり統計業務に貢献

統計の重要性を認識するとともに、住民への普及に努め社会経済の発展や地域の福祉の向上に役立てようという「第八回沖縄県統計大会」が、十一月二〇日、那覇市のゆうな荘で行われた。

席上、統計功労者や優秀市町村、事業所の表彰が行われ、今帰仁村が県統計協会長（西銘順治会長）より表彰。また北糖今帰仁事業所が、通商産業大臣表彰を受賞した。村の受賞は、各種指定統計や協会の事業に積極的に協力し多くの成果を上げ、さらに内容と精度が優れているというもの。また、北糖の受賞

★みんなで参加しましょう★ 第4回新春マラソン大会

主催 村体協、村陸上クラブ
日時 昭和57年1月2日（午後2時）
表彰 各部毎3位まで
申込 ゼッケンの都合で12月25日まで
申込先 村役場 諸喜田展生まで



母と子の 会話

「断絶」という言葉がマスコミをにぎわせたことがあります。例えば、先生と生徒、親と子供などの間に意思の疎通がなく、互いに相手のすることや言うことがよく分からない、というのもその一つです。

心のふれあいのびのびとした 雰囲気の中に生まれる

づくだけでなく、時には逆に、子供を一人の人間として扱ってみることで。親と子の間でそんな必要が、と思われるかも知れませんが、心と心の結びつきは、お互いの立場を尊重し合うところに育ちます。いつまでも子供扱いにして「子供は親の言うことをだまって聞いていれればいい」といった親子関係を続けていると自主性が育ちにくくなります。その結果、成人としてもおとなの社会に溶け込めなかつたりなど、人間関係がうまくいかなくなる可能性があります。このように、親と子供の関係が、子供の将来の人間関係を決めてしまふ、と言っても言いすぎではありません。また、親がほかの人と

親子の心がふれあうためには、まず第一に自由でのびのびとした雰囲気が必要です。子供が親を怖がって何も言えないようでは困ります。次に、お母さんではできるだけ子供と共通の体験を持つようにしましょう。そのとき大切なのは、親の方が一方的に子供に近

どんなつき合い方をしているか子供はよく見ているものです。親の後ろ姿を見て子供は育つと言われますが、親が社会とどんなふうにかかわっているかが、子供の性格を形づくるうえで重要な役割を果たしていることは言うまでもありません。

老人健康診査を受け 健康な生活を

十二月十日から十二月二十一日までの午前九時から午後五時まで、大井川医院、光武病院において老人健康診査を実施いたします。対象は村内の六十五歳以上の方で、仲宗根、玉城、呉我山、湧川、天底、勢理客、渡喜仁、上運天、運天、古宇利の各字は大井川医院、今泊、兼次、諸志、与那嶺、仲尾次、崎山、平敷、

越地、謝名は光武病院で行います。高齢者は、貧血、高血圧など一人で二・三の病気を持つている例が多く、しかも慢性的傾向が強いのが特徴です。ところが、

今年の老人健康診査の受診率は二七%と低く、思うように成果が得られていない状況です。住民検診とあわせて老人健康診査も受け、年二回の定期検診により健康な生活をおくるようにしましょう。

なお、詳細については厚生課福祉係か、直接両病院へお問い合わせ下さい。

年金大会で表彰

上運天・謝名・仲尾次の三字



▲約300人の関係者が集まった年金大会

十一月の「国民年金推進月間」の一環として、北部地区国民年金大会が、十一月二十五日名護市屋部支所ホールで行われた。

大会において優良市町村、自治会、個人など十三組織が表彰され、本村の字上運天(長浜英一区長)が社会保険庁長官表彰、



▲字上運天



▲字謝名



▲字仲尾次

字謝名(祖堅方仙区長)が県国民年金推進協議会長表彰、字仲尾次(上間嘉夫区長)が県知事表彰をそれぞれ受けた。

また、永年国民年金保険料徴収にたずさわっている仲松キヨさん(字湧川)による体験発表も行われ、年金に対する理解を——と訴えていた。

講演会

十二月四日からの「人権週間」にちなみ、名護市権擁護委員協議会では、十二月九日午後二時から村中央公民館において講演会を実施します。講師は名護市権擁護委員協議会長の村上仁賢氏で、演題は「人権の共存と法律」。多数の皆様のご来場をお待ちします。

ちぎり絵講習会

村教育委員会では、公民館講座の一環として、次のとおり「和紙のちぎり絵講習会」を行います。

○日時—十二月六日(日)午前

十時

○場所—中央公民館講堂

○講師—増井昭子先生

○受講料—千五百円(材料費)

相談員、戦傷病者相談員または県援護課にご相談下さい。なお、県援護課では、近く巡回相談所を開きますのでその機会をご利用下さい。

今帰仁村の相談日は次のとおりです。

◎昭和五七年一月二〇日

午前十時—午後四時

◎本部町営ホール

遺族の場合
公務扶助料、遺族年金、遺族給与金、弔慰金、特別弔慰金、妻に対する特別給付金、父母等に対する特別給付金および普通

旧軍人や遺族の皆さん 恩給や請求は済みましたか

旧軍人、軍属、準軍属(戦闘参加者、徴用工等)およびその遺族の皆さん、もう請求は済みませんでしたか。
生存者の場合
普通恩給(加算恩給及び加算改定)一時恩給、一時金、傷病恩給、障害年金、障害一時金、戦傷病者手帳の交付、補装具の交付または修理、国鉄無賃乗車券発行及び航空割引証の交付、戦傷病者の妻に対する特別給付金など、各種年金や一時金などです。

扶助料(加算改定)一時扶助料遺族一時金など、各種年金や一時金などです。
請求が済んでいない方
自分にも請求権があると思われる方は、村役場、戦没者遺族



なきじん版
12月1日～1月1日

村民カレンダー

12/1 火	○農振法・農地法違反防止月間(31日まで) ○成人病2次検診(10:00、役場ホール)	17 木	○健康体操(20:30、上運天公民館)
2 水	○心配ごと相談(13:30、中央公民館) ○母親学級(第4回、13:30、中央公民館)	18 金	○たばこ耕作組合総会
3 木	○健康体操(20:30、上運天公民館)	19 土	
4 金	○人権週間(10日まで)	20 日	
5 土		21 月	○区長会(14:00、役場ホール)
6 日	○和紙ちぎり絵講習会(10:00、中央公民館) ○肉用牛セリ市(12:00、村家畜セリ市場)	22 火	○健康体操(20:30、仲宗根公民館) ○1歳半健診(13:00、役場ホール)
7 月	○区長会(14:00、役場ホール)	23 水	○心配ごと相談(13:30、中央公民館)
8 火	○健康体操(20:30、仲宗根公民館) ○乳児相談(13:00、役場ホール)	24 木	○健康体操(20:30、上運天公民館)
9 水	○心配ごと相談(13:30、中央公民館) ○講演会「人権の共存と法律」 (講師-村上仁賢氏14:00、役場ホール)	25 金	
10 木	○健康体操(20:30、上運天公民館)	26 土	
11 金		27 日	
12 土		28 月	○御用納め
13 日		29 火	
14 月		30 水	
15 火	○健康体操(20:30、仲宗根公民館)	31 木	
16 水	○心配ごと相談(13:30、中央公民館) ○子豚セリ市(13:00、村家畜セリ市場)	1/1 金	○元旦

この一年間広報へのご意見ご寄稿ありがとうございました。来年も村に対する建設的ご意見をお寄せいただければ幸いです。

■光陰矢の如しノとはよくいったもの。毎年今頃になると、何もせずに一年が過ぎていくというあせりに悩まされるものだ。

■先月、長崎の平和祈念館を訪れる機会を得た。悲惨な戦争の写真や資料を前にしばし呆然とした。平和を希求し当館に飾られる千羽鶴は、はからずも沖繩の中高生から寄せられたものが多い。戦争を実感として促えられる土地柄のせいだろうか。

■折しも村の平和祈願祭が慰霊塔前で行われた。恒久平和はすべての国民の願いだと思ふのだが……この頃好戦の策動が強いという感じもあつて複雑な思いを禁じえなかった。

■平和は与えられるものではなく創るものであり、我々はそのため努力を惜しんではならない。文化や生活のすべては平和なくしてはありえないのだから。

編集後記

